

# 農業系 YouTuber バズるか？！

YouTube や Twitter、Facebook 等々、テレビやラジオなどのメディアに頼らない SNS を活用した PR 方法が世界中で認知されてきている。2020 年の男子児童（小学生）のなりたい職業ランキングでも「YouTuber」が 6 位に登場（前年は 11 位）するなど昭和の時代には考えられない（上記のような SNS はそもそもなかったが）動きを見せている。子供たちが（大人もそうだが…）スマホ片手に画面一点に集中して YouTube を見ている姿には驚かされる毎日だ。日本における YouTube 登録者ランキングは 2022 年時点で 1 位：じゅんや（登録者数 1,290 万人）2 位：せんももあいしー（登録者数 1,070 万人）、3 位：HikakinTV（登録者数 1,050 万人）がビック 3 となっている。このビック 3 を見ると内容は子供も見られるような内容となっており、子供からその親まで幅広い年齢層をターゲットにしているように思える。ほぼ毎日に近いくらいに更新されており中毒のように見てしまう。毎日に近いネタを提供するパワーは凄いとしか言いようがない。

さて、YouTuber はどのように収益を上げているかご存じだろうか。収益を上げる方法としては基本的に自分の動画を上げる際にスポンサーがつく広告収入だそうなのだが、スポンサーがつけられる条件としては再生回数が 1 万回以上ないとスポンサーがつけられないルール（YouTube パートナー・プログラム）となっているようだ。この条件をクリアしたのちに仮にスポンサーがついたとしてもスポンサーが出している CM が閲覧されない限りは YouTuber には収益が落ちてこない。広告の単価も日々かわっているようなので簡単に稼げるものでもないようだ。どの世界も稼ぐのは簡単ではないのである。

登録者数や再生回数の規模はケタ違いに劣るものの農業系 YouTuber なる分野があるようだ。農業系 YouTuber が登場したのは 2010 年頃のように、流行りだす前から農場や作業の様子をアップし続けている。今日に至ってはアップされている動画は栽培管理作業の動画が多いものの、農業経営や農業関連の法律や補助金の解説を行うものもあり、肥料についても施肥効果などの説明を行っているものまでと内容は多彩だ。企業が自社の生産資材を分かりやすく PR している場合は出版社やマイナビ農業等の専門業者が動画編集に携わっていることが多いようだ。明らかに個人でアップしていると分かるような動画はその粗雑さがまた違った味を醸し出しているものもあり、つい見入ってしまう。今までの印象としてはプロの農家ほど技術を隠す方が多いと感じていたが、動画に上げている生産者は惜しげもなく栽培方法を教えており、世の中変わったと思う次第だ。さらに、YouTube で情報発信するのは何も個人や企業だけではない。官庁も活用されているのをご存じだろうか。農水省が「BUZZ MAFF」と称して農水省の若手有志官僚が霞が関初の試みとして、食や地方の魅力について手作り感満載に SNS を通じて発信している。BUZZ MAFF（バズマフ）の BUZZ とはブレイクする事をバズると言う造語と、MAFF は農水省の英語頭文字を取った略語表記（Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries）である。コロナ禍で花の需要が落ち込んだ時の対応や発信者の人事異動でもテレビが取り上げるなど話題を提供している。名前のようにバズるかはさておくとして時流に乗って農業分野でも SNS の活用が拡大している。一度も閲覧したことがない方は一度、農業系 SNS を覗いてみては如何だろうか。

## MCFC も You Tube Instagram 発信！

肥料メーカーでも SNS 活用を始める会社が出ている。エムシー・ファーマティコム(株)でも YouTube ([https://www.youtube.com/@mcfc\\_3121/featured](https://www.youtube.com/@mcfc_3121/featured))にて主力商品紹介や利用農家訪問、「にいちゃんガーデン (<https://www.youtube.com/@user-fi7bx6ju8q>)」などの動画配信を開始。また Instagram の活用も始めた。「オキサミド」を紹介する配信動画は作り込まれており必見だ。まだ産声をあげたばかりだが読者の皆様方、どうぞメーカーの方に色々なご意見・激励をお願いしたい。



## 久しぶりの西部・中部菱肥会開催

去る令和5年1月11日にホテルグランヴィア大阪にて西部菱肥会 新年賀詞交歓会を開催致しました。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るって以来、実に3年ぶりの開催となりました。開催にあたり、同会会長で三菱商事(株)関西支社 石油化学・基礎化学事業部 浜口部長、理事長の小浦産業(株)小浦社長はじめ各会員の皆様と賛助メーカの皆様、当社からは社長の菅生、肥料部長の田口はじめ、大阪支店メンバーの合計31名の出席となりました。当日は入口に消毒液や検温計を設置し感染症対策を十分に施すとともに、従来の立食形式から円卓を囲む着席形式に変更して行いました。皆様の円卓には一人ずつパーテーションの仕切りが設置され、久しぶりの開催に皆様の表情は晴れやかで和やかな時間を過ごす事が出来ました。中締めには明治大学体育会応援団ご出身である同会運営委員長の山本コーポレーション(株) 山本社長より同会の益々の発展を祈念したエールを頂き閉会となりました。次回開催の際はパーテーションやマスクが無くなっていることを願っております。

また、2月14日には名古屋(JRゲートタワーカンファレンス)にて中部菱肥会セミナーを開催致しました。本会は実に4年ぶりの開催となりました。当日は現地セミナーと並行して会場の様子、資料をライブ配信するTeamsのウェビナー機能を用いたハイブリット形式にて開催致しました。当日は、同会理事長の豊田肥料(株) 豊田相談役をはじめWebにてご参加の会員様を含め30名程度の出席を賜りました。セミナーでは三菱商事(株)次世代発電燃料事業部燃料アンモニア・水素導入室の森マネージャーを講師に招き、『商社の進める燃料アンモニアビジネス』について講演をして頂きました。ブルーアンモニア、グリーンアンモニア等の基礎的なご説明



や今後の市場規模についてのご説明、アンモニアが次世代燃料として用いられた場合の肥料用途における影響等について貴重な講演となりました。通常、チッソ源として使用されているアンモニアが今後燃料として用いられた場合、肥料用途におけるアンモニアの価格高騰や原料不足といった影響が無いのか?といった質問も飛び交い、非常に有益な活気のある講演となりました。前述について現状では、肥料用途と燃料用途が互いに干渉しない様、すみ分け、衝突を回避する方針で進んでいるとの事でひとまず安心する事が出来ました。今後も引続き注視していく必要がある分野であります。

続いての講演では、さつまいもカンパニー(株)橋本代表を講師に招き『さつまいもの魅力と可能性』についての講演をして頂きました。講演では皆様が知っている様で知らなかったさつまいもの歴史や魅力、普段聞きなれない品種等の御紹介、現在のさつまいもブームについての考察、今後の取組み等を講演して頂きさつまいもの奥深さに感嘆する内容でありました。多くの方が初めて聞くであろう「ひめあやか」という品種。橋本代表曰く、味と質感が一番おすすめとの事で希少価値がある事から、是非皆様も見つけられた際はご賞味頂くと新たなさつまいもの魅力に触れる事が出来るかもしれません。セミナーの最後にはさつまいもにちなんで名古屋、梅花堂の「鬼まんじゅう」をお配りさせて頂きました。さつまいも本来の風味と甘味が感じられ非常に美味で一瞬で食べ終えてしまいました。最後に同会運営委員長の日本オーガニック(株) 水谷社長よりセミナー全体を振り返ってのご感想を頂き閉会となりました。今回、皆様のご理解、ご協力を得て延期していた菱肥会を久しぶりに開催する事が出来ました。まだ以前の通りとはいかないまでも、少しずつ厳しい冬から穏やかな春に向かっている気が致しました。引続き、気持ちを引き締め素敵な春の訪れを皆様で迎えたいと願っております。(大阪支店)

WBCのキャンプが宮崎県で始まり、現地はとて賑わっている様ですね。大会では大谷選手やダルビッシュ選手などメジャーリーガーを試合で見られますし、声出し応援が解禁になって初めての公式戦なので球場の盛り上がりも楽しみです。昨年のサッカーワールドカップに続いて野球でも熱い戦いを期待しています。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>